

酒田市の大火（1976年）はフェーンによる ものではありません

青木 孝*

1976年10月29日夕方から30日の朝にかけて山形県酒田市で大火が発生した。そのときちょうど私は気象庁の予報課で夜勤をしていた。フェーンによる大火ではないかとの電話による問い合わせを新聞記者からいくつか受けた。そしてフェーンは起こっていないと説明したことを覚えている。ところが今年（1986年）新しく発行された気象や気候関係の本のなかには、酒田市の大火をフェーンの項で言及しているものもある。

日本海側の地域での大火の多くはフェーンのときに発生している。酒田市は日本海に面しているけれども、火災の発生の前後の気象状況から、この火災とフェーンとは無関係のようだ。

フェーンとは、気候学・気象学辞典によると、

①山越えをして吹きおどってくる

②乾燥して比較的高温な

風のことである。

しかるに酒田市の大火の場合には、風雨波浪注意報が

発令中であり、第1表によると、

①西風が吹いていた。酒田市の西側は日本海である。西風ならば山を吹きおどる風とはならない。

②相対湿度は70%前後であった。雨が断続的に降っており、乾燥していない。

③気温は、朝に高かったが日中に低くなった。この日の最高気温は午前1時50分に15.2°Cを、最低気温は午後4時05分に7.0°Cを観測している。日平均気温は11.0°Cで、平年より0.7°C低かった。

一般に大火はフェーンが原因と思われるようだ。しかしフェーンでなくても大火が起こることに注意したい。

文献

酒田市，1978：酒田市大火の記録と復興への道。

吉野正敏ら，1985：気候学・気象学辞典，二宮書店。

第1表 酒田測候所の気象観測資料

	天気	風向	風速	湿度	前3時間 降水量	気温
10月29日09時	晴れ	西	11.8 m/s	45%	0.5 mm	14.1°C
12	雨	西	8.2	71	2.5	10.0
15	曇	西	8.0	69	2.0	8.3
18	あられ	西南西	12.2	73	1.0	8.5
21	雨	西北西	12.0	76	3.5	9.9
24	雨	西北西	11.5	72	1.0	9.2

*Takashi Aoki, 気象庁長期予報課。